

令和6年度

山城中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

知識と技能の定着を図り、活用できる力を育てる

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
香川 朗	校長 井手 智 教頭 前田 和美 教務(数学担当) 藤本 敦士 3年主任 井川 秀樹 2年主任 井上 陽子 1年主任 香川 朗 国語担当 川西 葵

校長

井手 智

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

企画委員会や学力向上推進委員会において随時取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いたある授業態度で、毎日の課題にも真面目な取り組みが見られる。 ●学習に苦手意識のある生徒や、基礎・基本の定着が不十分な生徒がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・新たに身に付けた知識や技能を、既習事項と結びつけ、他の学習場面にも活用することができる。	・授業の最初に学習目標を明示し、授業の最後には振り返りの時間を設定することで、本時の学習内容を明確にする。 ・タブレット等のICT機器を活用して、学習内容の定着を図る。 ・色々なジャンルの本を読むことを推奨し、読書の時間を充実させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合い活動に意欲的に取り組める生徒が多い。 ●自分の考えを、根拠を示しながら筋道立てて論理的に説明することが苦手な生徒が多い。	・相手の考え方も理解しようと努めるとともに、自分の考えも表現できる。 ・各種の課題などに対して、話し合い活動を通して解決する方法を考えることができる。	・学習活動の中で、自分の気持ちや考えを伝え合う場面を積極的に設ける。 ・タブレットやデジタル教科書を効果的に用いて、情報収集や思考整理、意見発表に活用する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中、積極的に発表する生徒が多い。 ●家庭学習の習慣が身に付いていない生徒や、学習時間が十分に確保できていない生徒がいる。	・積極的に自分の気持ちや考えを述べたり、ペア学習やグループ学習において活発に意見交換したりすることができる。 ・自分に合った学習目標を立て、習慣的に課題や自主学習に取り組むことができる。	・授業では、学び合いや教え合いの場を積極的に取り入れる。また発展的に学べるような課題を提示する。 ・各自の家庭学習について振り返る機会を設定する。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

